



コンチェルト Concerto



Vol.6-8

(2017.8.24発行 第6回コンクール関連 第8号)



仙台クラシックフェスティバル2017 9/29(金)~10/1(日)

コンクールボランティアメンバーの注目公演はいかがですか



今回6名の 仙台国際音楽コンクール(SIMC)出場者の方々が出演、
"せんくら"を盛り上げて下さるでしょう。(Y.G)

※【 】内の数字は公演番号

成田達輝 (第5回ヴァイオリン部門2位) 【1】 【25】 【86】
ジュゼッペ・アンダローロ (第1回ピアノ部門1位) 【11】 【51】 【85】
スヴェトリン・ルセフ (第1回ヴァイオリン部門1位) 【19】 【25】 【51】
津田裕也 (第3回ピアノ部門1位) 【19】 【71】 【81】
青木尚佳 (第6回ヴァイオリン部門3位) 【25】 【80】
佐野隆哉 (第2回・第3回ピアノ部門出場) 【47】



成田 達輝
©Hiroki Sugiura



ジュゼッペ・アンダローロ
©Augusto Serpente



スヴェトリン・ルセフ
©Vahan Mardirossian



津田 裕也
©Christine Fiedler

これまでの"せんくら"でもすっかりお馴染みのアンダローロさん、ルセフさん、
津田さん。昨年に続き二度目の成田さんに、初登場の青木さん。以前はソロで出演
経験のある佐野さんは、"せんくら"初登場のクラリネットの吉田誠さんとの共演。まだ"せんくら"パンフレットがお手元
にない方は即入手、要チェック!どの公演もお薦めですが、限られた紙面上あえて3つピックアップすると・・・

【1】豪華6人のソリストによるオープニングコンサート (成田達輝、林美智子、鈴木優人、長谷川陽子、青柳晋、朴葵姫)

9月29日(金) 11:00~12:00 日立システムズホール仙台 コンサートホール

成田さんのバガニーニでせんくら2017開幕!

【19】ドヴォルザークのピアノ五重奏曲 (スヴェトリン・ルセフ、津田裕也、西本幸弘、井野邊大輔、原田哲男)

9月29日(金) 14:45~15:30 仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

ルセフさんと 新旧仙台フィル弦の名手の方々 & 室内楽でもますます冴える津田さんのピアノ。

【25】一夜だけのドリームチーム、せんくら・フェスティバル・ソロイスト (成田達輝、スヴェトリン・ルセフ、青木尚佳、
川久保陽紀、神谷未穂、磯絵里子、井野邊大輔、飯川直美、三宅進、原田哲男、助川龍、梅津樹子)

9月30日(土) 19:00~20:00 日立システムズホール仙台 コンサートホール

こんな豪華な弦楽アンサンブルは他では聴けません。SIMC入賞者3人の共演にも注目。



青木 尚佳
©井村重人



第12回を迎えた今年の「せんくら2017」。多彩なプログラムで、どの公演にも足を運びたくって
しますが、私は以下2つの公演を特にお勧めしたいと思います!(M.W)

【7】音楽サプリⅡ。チェリスト三宅進が、ピアニスト加藤昌則とともにあなたに贈る音楽の処方箋。

9月29日(金) 12:15~13:00 日立システムズホール仙台 交流ホール

音楽療法という言葉もあるように、音楽には心と体を癒してくれる効果があります。曲目も、メンデルスゾーンの
チェロソナタや、ヤナーチェクのおとぎ話など、ゆったりと心安らぐひと時にはぴったりの曲ばかり。仙台フィル
ハーモニー管弦楽団ソロ首席チェロ奏者、三宅進さんの奏でる心地よい低音に包まれながら、処方箋という名の
素敵なプログラムで心身共にリフレッシュしませんか?



三宅 進



青島 広志
©FU

【65】テレビでお馴染み、青島広志が贈る名作オペラの魅力

10月1日(日) 15:45~16:30 日立システムズホール仙台 シアターホール

クラシックにあまり縁がない方でも、青島広志さんの名前は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。"せんくら"初登場の青島さんがテノール
歌手の小野勉さんを迎えて、名作オペラの世界にご案内。誰もがどこかで聞いたことのある曲を、愉快的トークと解説を交えてお送りします。
きっとオペラの虜になること間違いなしです!



"せんくら"の醍醐味の一つは、なんといっても「はしご」。お気に入りの演奏家のはしごもおすすめなのですが、
好きな曲のはしごもおすすめです。パンフレットを手にした瞬間から、「今年の"せんくら"には、私の好きな
曲が演奏されるかしら?」と心をときめかせながら演目を探す時間は、至福のひとつになるのではないで
しょうか。(H.W)

【20】華麗なフランクに酔い、ショーソンの神秘に息を呑む。フランス・デュオの決定版

9月29日(金) 17:15~18:00 仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

【71】フランス系ヴァイオリン・ソナタの最高傑作 初共演、西江&津田のラヴェルとフランク

10月1日(日) 17:15~18:00 エル・パーク仙台 ギャラリーホール



郷古 廉
©Hisao Suzuki



田村 響
©武蔵草

フランクのヴァイオリン・ソナタは、「ヴァイオリン・ソナタ」とはいうものの、ピアノパートも伴奏にとどまらず両者の共演と
いわれている曲です。特に第四楽章の出だしの部分は、ヴァイオリンとピアノが輪唱するように掛け合っており、初めて聴く方にも
こんなに華やかに二つの楽器が共演するヴァイオリン・ソナタがあるんだ、と新しい発見になると思います。

また今回の演奏は、2公演ともに初めてデュオを組む二人の共演であることもおすすめポイントの一つです。【20】では多賀城市
出身の郷古さんと「題名のない音楽会」などに出演されている田村さんがどのような演奏をするのか、【71】では西江さんと津田
さんが初共演ということも意外ですが、どのようなハーモニーを奏でるのか、今から期待で胸がワクワクしています。



西江 辰郎
©Kazuhiko Suzuki

[詳しくは、せんくら2017のパンフレット、公式サイト <http://sencla.com> をご確認ください。]



第6回仙台国際音楽コンクール優勝者インタビュー



優勝記念リサイタルのために来仙されたお二人にお話を伺いました。

キム・ヒョンジュンさん

(ピアノ部門優勝)



■ 1年振りに仙台で演奏された感想はいかがでしたか？

昨年コンクールを聴きに来てくださったお客様に、今回も多くご来場いただき、感謝するとともに、とても嬉しい気持ちになりました。昨年はコンクールの場だったので、落ち着かず、すごく緊張しましたが、今回はお客様に十分に楽しんでほしい、自分も楽しみたいという気持ちで弾くことができました。

■ 優勝記念CD録音について。

今回のレコーディングでは、リサイタルで演奏した曲をメインに収録する予定です。モーツァルトのソナタ(K280)はそれほど演奏される曲ではありませんが、リサイタルの冒頭にぴったりと思い、今回プログラムに入れました。

また、シューマンの「謝肉祭」には様々な性格の曲が含まれていて、聴いていて楽しめる作品です。きっと私も楽しく弾き分けられると思います。

プロコフィエフの第2番のソナタも演奏される機会が少ない曲です。後期作品の第6～8番はよく知られていて、コンサートでもたびたび聴く機会があります。また、初期のソナタでは第1番、第3番が比較的よく演奏されます。でも私は第2番が本当に大好きで、プロコフィエフの作品の中でも傑作のひとつと思っているので、今回選んでみました。

■ ご両親のすすめで5歳からピアノを始めて、10歳でソロデビューをされています。

両親が私を本格的にピアニストにさせようと決めたのは6歳の時でした。その時から母は私に、毎日10時間ほどの練習を課しました。母は厳しかったです。でも、5年という短い期間でデビューできたのも、練習を続けてきたからでしょう。

■ 現在師事しているムン・ヨンヒ先生はどのような方ですか？

ムン・ヨンヒ先生は私の2番目の母のような存在で、細かいところまで気に掛けてくださる、とても親切な先生です。留学先にピーボディ音楽院を選んだのも、ムン先生がそこで教えていらっしゃるからです。

先生はコンクールやコンサートの前などの大切な時、時間を気にすることなく付き合ってくださいます。昨年、仙台での優勝を伝えたら、先生もとても喜んでくださいました。先生とは不思議なことに家族のような縁で結ばれていると感じます。全ての面でサポートしてくださる、心から信頼できる存在です。

■ いつも素敵なドレスで舞台上がられています。ドレスはご自分で選ばれるのですか？

いつも不公平だなと思いますが、男性はシンプルなスーツを着て演奏すればいいので、衣装のことは気にせず演奏ができます。でも、女性はドレスやメイクに配慮しなければなりません。衣装を選ぶ上で私が最も大切に考えているのは、自由に動きやすく演奏できるかということです。

ちょうどアメリカに移った時に、タダシ・ショージ(仙台市出身のデザイナー)のドレスに出会いました。通常ピアニストは演奏しやすいよう、袖のない衣装を選ぶのですが、私は袖がある方が好きです。彼のデザインは可愛くて綺麗なだけでなく、袖付きでもとても動きやすく、まさに私が求めていたものでした。それから彼のコレクションを注目するようになって、13～14着持っています。今ではほとんど彼のものしか買わない位、大ファンになりました。

■ 昨年の仙台国際音楽コンクールで、今も印象に残っている思い出は何ですか？

予選では多くの出場者と競い合いましたが、セミファイナル以降、出場者同士と一緒に食事して情報交換をしたり、練習したりするようになりました。特に5位に入賞したシン・ツァンヨンさんとは意気投合して、お互いにアイデアを交換しながら練習したことが印象に残っています。

コンクールスタッフの皆さんも素晴らしく、運営もスムーズで、私たち出場者を進んでサポートしてくれました。これは他のコンクールではなかなか経験できないことです。舞台裏でスタッフの方がバナナを手渡してくれ、緊張をほぐしてくれたのも本当に嬉しかったです。

指揮のヴェロさん、仙台フィルの皆さんも、私がベストを尽くすことができるような環境を作り、更に素晴らしい音楽を作れるようサポートしてくださいました。本番ではコンクールであることを忘れ、コンサートで弾いているような気分になりました。オーケストラの皆さんが私の演奏をしっかり聴き、それに対応する演奏をしてくれたので、今まで経験したことがないほど、心地よく演奏ができました。

■ 10月22日には、山田和樹さん、仙台フィルとの共演でグリーグのピアノコンチェルトの演奏が予定されています。

個人的にもグリーグのコンチェルトは好きな曲です。第一楽章の冒頭は印象的ですし、第三楽章のリズムも好きです。この演奏会では赤いドレスを着て出演したいと思っていて、タダシ・ショージが新作を出してくれるのを待っているところです。

この曲はオーケストラと合わせるのがすごく難しいのですが、仙台フィルの方々が素晴らしい演奏をしてくれるのは間違いありません。次回もベストを尽くしますので、是非お運びいただき、私の音楽を楽しんでいただければ幸いです。皆様と再会できることを本当に楽しみにしています。

(取材：2017年6月24日)



■リサイタルを終えた感想はいかがですか？

東京、仙台どちらも聴衆の皆さんにとっても温かく迎えていただいたので、演奏できることを嬉しく思いました。

今回はバラエティーに富んだ選曲でしたが、結果として演奏時間が思った以上に長くなってしまいました。東京ではアンコールは1曲でしたが、サイン会ではもう少し聴きたかったとの声をいただき、仙台では2曲演奏しました。お客様にはちょっとハードだったかもしれませんね（笑）。

■今回のリサイタルでの選曲について。

プログラムを作るにあたり、演奏機会が少なくても素晴らしい曲を紹介したいと思いました。また曲の持つストーリー性を伝えることにより聴衆の皆さんに私の思いを共感いただけるような作品を選びました。

普段のリサイタルでは幅広い時代から選曲したりしますが、今回はCD録音もあったので、聴いている人に楽しんでいただけるよう、癒しを感じる曲やワクワクするような曲などバラエティーに富んだ選曲を意識しました。

最初に演奏したメンデルスゾーンのソナタはとてもロマンティックな美しい曲なのに、演奏される機会が少ない作品です。私が師事するフリード先生が敬愛しているヴァイオリニストのユーディ・メニューイン氏がベルリンの図書館で発見した作品で、フリード先生も私の演奏方法やスタイルに合う作品だから、ぜひにと勧めてくれました。

グリーグもストラヴィンスキーもチャイコフスキーの旋律を思わせるロマンティックで美しい曲です。私にとっても挑戦がいのあるプログラムだったので万全の準備で臨み、楽しく演奏することができました。

チャン・ユジンさん

（ヴァイオリン部門優勝）



■優勝記念CD録音について。

CD録音としては、バラエティーに富み、皆さんに楽しんでいただける内容だと思います。ストーリー性がある長い旅を予感させるようなCDになるのではないかと期待しています。

■現在使用しているガダニーニはどんな楽器ですか？

韓国の音楽雑誌「ケクソク(客席)」のオーナーに2年前から貸与されている楽器です。その前には宗次ヴァイオリンエンジェルコンクールから貸与されていたストラディヴァリウスを使っていました。こちらはガラスのような透明感のある音でしたが、ガダニーニは明るく、深みがあってベルベットのような感触の音です。全然性質が違うため、慣れるまでに相当時間がかかりました。今回の録音ではヴァイオリンの音色についても聴き込んでほしいと思います。

■ヴァイオリンを始めたきっかけ、現在までの簡単な経歴についてお聞かせください。

幼稚園の時、韓国中央部の清州市に住んでいました。私の両親ともに音楽家ではありませんが、クラシック好きの父がヴァイオリンを買い与えてくれ、スズキ・メソッドの教室で週1回程度のレッスンを受け始めました。その頃はヴァイオリニストになろうとは考えてもいませんでしたが、9歳の頃予備音楽学校でキム・ナムユン先生に出会い、音楽に没頭するようになりました。韓国芸術総合学校を卒業し、現在はボストン・ニューイングランド音楽院で博士課程に在籍しています。

■現在師事しているミリアム・フリード先生はどのような方ですか？

先生とは私が12歳の時に出場したメニューインコンクールのジュニア部門で審査員をされていて初めてお会いしました。その後先生が韓国にお越しの際は、必ず私に連絡をくださいました。このような経緯からフリード先生につくことになりました。先生は「技術を追いかけるのではなく、作曲家に対し敬意を持ちなさい」「完璧になろうとしないで、音楽で語りなさい」とおっしゃいます。先生は完璧なのですけれどね。生徒に良いインスピレーションを与えてくれる先生です。

■現在の暮らしぶり、趣味などについて。

現在ボストンに住んでいます。とても歴史があり、静かで古い建物や道路が残る素敵な街です。映画館で映画を見ることが好きで、特にアクション映画は私のストレス解消に役立っています。自然が好きで、温泉などに興味があります。また、おいしいものを食べることが好きなので演奏旅行ではその土地の名物を楽しんだりしています。

■今後のスケジュールについて。

今回のリサイタル後、韓国に戻って私が所属しているカラチ弦楽四重奏団でベートーヴェンを演奏します。7月末には東京都交響楽団とメンデルスゾーンの協奏曲を演奏します。8月にはソウルでチェリストとデュオコンサートを行い、その後再びカラチ弦楽四重奏団でコンサートを行います。9月2日に韓国でピアソラの「四季」を演奏し、22日には福岡で九州交響楽団とストラヴィンスキーの協奏曲を共演します。

■仙台のファンに一言お願いします。

リサイタルでは沢山の皆様にお越しいただきありがとうございました。昨年のコンクールから聴いてくださっている皆さんと再会でき、とても嬉しかったです。また日本を良く知る機会を与えていただいていることにも感謝しています。

私はいつも正直で真摯な姿勢を心がけ、作曲家が伝えようとした曲の感情を皆様と分かち合えればと思います。そのためにぜひまた仙台に来たいです。

（取材：2017年6月26日）

今回は仙台フィルハーモニー管弦楽団 2ndヴァイオリン首席奏者 山本高史さんにお話を伺いました。



仙台フィルハーモニー管弦楽団
2ndヴァイオリン首席奏者 山本高史さん

オーケストラでの演奏活動について教えてください。

仙台フィルの定期演奏会は年に18公演ですが、他の演奏会を含めると年間の公演数は100以上になります。3日に1回のペースなので、本番と譜読み、練習は並行して行っています。オーケストラに10年いれば一通りのレパートリーを経験すると言われますが、新曲や久しぶりに演奏する曲もあり、まだまだ忙しい日々が続いています。

ヴァイオリンを始めたきっかけを教えてください。

ヴァイオリンは3歳から始めたのですが、中学の吹奏楽部でトロンボーンを始めて、仲間とアンサンブルをすることの楽しさに夢になりました。その間、ヴァイオリンにはあまり熱心ではなく、プロになろうと考えたのは高校2年生の時と遅かったのです。両親は音楽家ではなかったのですが、母親が、私が胎内にいた時に、レコードでバッハの無伴奏ソナタを聴いていたのです。生まれてからもそのレコードに興味を示して聴いていたらしいので、もしかするとその時から半分くらい運命が決まっていたのかもしれない(笑)。

2ndヴァイオリンの役割と、演奏する面白さは？

主に主旋律を弾く1stヴァイオリンと役割は異なり、2ndヴァイオリンは、その主旋律をハーモニーで支えたり、ヴィオラと一緒にリズムを刻んだりする役割が多いです。「世話女房のように1stを支える役割」と言われたことがあります。木に例えると、低音を支えるコントラバスとチェロが根や幹となり、ヴィオラと2ndヴァイオリンが枝葉を茂らせ、1stヴァイオリンが綺麗な花を咲かせるという感じでしょうか。2ndパートを担当していて感じる良さというのは、1stの演奏を支えながら全員で一つの音楽を作り上げるという充実感、楽しさを得られるところだと思います。

仙台国際音楽コンクールでは第1回からサポートしていただいております。

仙台国際音楽コンクールの出場者は毎回レベルが高く、彼らとの共演は演奏家としても勉強になることがたくさんあります。同時にこのステージで出場者の人生を決めてしまうのではという思いから、常に緊張感をもって臨んでいます。皆さん本当に優秀な方ばかりですが、オーケストラが合わせやすいと感じる方、アンサンブルが上手な方が上位に選ばれるケースが多いような気がします。

今まで特に印象に残っている出場者はいらっしゃいますか？

皆さん素晴らしい演奏家ばかりですが、特に衝撃的だったのは第1回ヴァイオリン部門優勝者のスヴェトリン・ルセフさんです。彼の演奏は明らかに音の質が異なり、楽器を弾いているというよりは、まるで彼の音楽を聴いているというか、彼の歌を聴いているように感じました。

震災後、音楽について、仙台について改めて感じられたことはありますか？

一時は音楽どころではありましたが、仙台フィルはすぐに被災地などで演奏活動を始めました。そしてコンサートホールが復旧して皆さんの前で演奏できた時は、「音楽が身近にあることの大切さ」を改めて強く感じました。

最後に聴衆の皆様へ一言お願いします。

ぜひ、会場に足を運んでいただき、「生」の音楽を聴いていただければと思います。生の演奏は、テレビや録音では味わえない臨場感があり、きっと心揺さぶられるものがあるはずですよ。「オーケストラに会いに行く」という気持ちで、会場にいらしてください。お待ちしております。

「Charity Concert for Sendai vol.7」レポート

5月6日(土)、仙台国際音楽コンクールに出場経験のあるピアニスト5人(佐野隆哉さん、鈴木美紗さん、津田裕也さん、法貴彩子さん、米津真浩さん)によるチャリティーコンサートが東京の牛込区民ホールで開催されました。

このコンサートは東日本大震災発生直後の2011年4月7日に始まり、仙台のコンクールに出場したピアニストの皆さんの自主運営により毎年継続され、今年7回目を迎えました。1～4回目まではコンサート収益の全額を被災地の仙台市に寄付いただき、第5回目からは被災した子供たちを支える施設「子どもの村東北」を新たな支援先に加え、仙台の復興の大きな力になっています。

この日は、バラード全4曲を含むショパンの名作11曲を5人のピアニストが弾き分けるという、贅沢なプログラムが組まれました。そして、この日の収益金と募金をもとに、仙台市と「子どもの村東北」へ計243,360円が寄付されました。

仙台を常に忘れず心を寄せて、演奏だけでなく、企画から本番の運営までの全てをされているピアニストの皆さん、そしてご来場いただいたお客様に心より感謝申し上げます。



(左から)鈴木さん、法貴さん、米津さん、津田さん、佐野さん

♪編集後記♪

初参加で優勝者インタビューという、重大な記事を担当いたしました。緊張しましたが、楽しかったです。(戸)

インタビューは楽しかったけれどご本人の思いを伝えられたかなと自問自答です。いい経験でした！(Y・S)

小説「蜜蜂と遠雷」のピアノ曲を収録したCDを買いました。休日の昼下がりにCDをかけて小説を読む時間が、今一番のお気に入りです。(W)

うだるような暑さの先に、実りの秋、芸術の秋が。そして楽天の優勝が。待ち遠しや。(G)

素晴らしい優勝者に恵まれて、仙台のコンクールの将来がますます楽しみに思えた今回のインタビューでした。(岡)

チャン・ユジンさんの優勝記念演奏会の選曲がとても興味深く、将来は音楽祭などの芸術監督業もいけるのでは？と期待が膨らみました。(川)

今回は2人でユジンさんのインタビューを行いましたので、リラックスして会話ができました！(早)

この度初めての原稿作成でした。せんくらの記事を書いていてどれも魅力的な公演ばかりで目移りしてしまいました。(M)

もうあつという間にせんくらの季節ですね。新メンバーも加わり、今後の活動がより一層楽しみです。(事務局 S)

二人の優勝者の素晴らしい演奏を聴き、これからの活躍がますます楽しみになりました。(事務局 松)